



橋本 健一郎氏

十月前半は、FOMCの議事録で年内の利上げは正当化されたものの、数名のメンバーが低インフレについてのコメントを発した事、九月のADP全米雇用リポートでは非農業部門の雇用者数(政府部門を除く)が前月比一三万五、〇〇人増と市場予想に届かなかつたなどのマイナス材料もあったが、米サプライマネジメント協会(ISM)が発表した九月の非製造業景況感指數が五九・八と市場予想に反して前月比で改善し、二〇〇五年以来の水準に上昇したこと、米国税制改革が実現して企業業績を押し上げるとの期待が強まりNYダウが急騰した事などを好感しLMEアルミ相場はUP、十月十四日時点での一二五・五ドル(現物後場買い)と月初価格から六二・五ドルUPの前半締めとなつた。

後半は中国での冬期大気汚染監視の影響で供給不足が懸念されると、九月の中国亜鉛生産減少や冬季の精算引締め報道を受けての亜鉛の上昇などのプラス材料もあったが、国第3四半期GDPが六・八%増と第2四半期の六・九%増から減速したこと、ECBが二十六日の会合で量的緩和の縮小を決定、月額六〇〇億ユーロとしている債権買入規模を三〇〇億ユーロに半減、九月末まで延長したことを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、十一月九日現在LMEアルミ相場(現物後場)は一二〇九五ドルと後半スタート価格から二八ドルDOWNしてのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一三・七〇→一一四・一四(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車販売台数は前年比一・七%増の八五万五、一二三台であった。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・九%減の八万三、一二八戸であった。

◆貿易関連指標

輸出 財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一・五%増の一六五t、二次合金が

スクラップ需給、不足気味か

橋本 健一郎氏リポート②

一・四%増の一、八〇三t、スクランプが八・二%減の八・八一六t、アルミ缶が一四・九%増の五、一八二t。

輸入

輸入は新地金が前年比五・一%減の一〇万〇、〇九五t、二次合金が一二・二%増の一〇万一、四六五t、スクランプが一・二・三%増の五〇一t、合金スクラップは三六%増の二、一一一t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム合金協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・九%減の一七万〇、三七四tと、一一力月ぶりマイナス。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・九%減の一七万〇、三七四tと、一一力月ぶりマイナス。

■概況

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・九%減の一七万〇、三七四tと、一一力月ぶりマイナス。

【自動車販売】

九月の四輪車生産台数は八五万五、一二三台で、前年同月比一・七%増となり、一二力月連続で前年同月を上回った。

【住宅着工数】

十月の四輪車販売台数(軽は除く)は二三万、五六三台で前年比五・三%減となり、一二力月ぶりマイナス。このうち、乗用車四・四%減、貨物五・八%減、バス一五・四%減。

【自動車販売】

三、一二八戸で、前年同月比で二・九%減となつた。また、季節調整済年率換算値では九五・二万戸(前年比一・〇%増)となつた。住宅着工の動向については、前年同月比で三カ月連続の減少となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となつた。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では四カ月連続の減少(前年同月比二・三%減、季節調整値の前月比では二・六%増)。前年同月比では四カ月連続の減少(前年同月比二・三%減、季節調整値の前月比では二・五%増)。

(貸家)

(四面より続く)

(分譲住宅)

前年同月比では四力月ぶりの減少(前年同月比五・三%減、季節調整値の前月比では一・九%増)。

・分譲マンション

前年同月比では四力月ぶりの減少(前年同月比九・二%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比二・二%減)。

アルミニウム一次合金 同合金地金等生産実績
生産は前年比〇・一%減の六万九、四八四tと、三カ月ぶりマイナス。出荷は一・三%減の七万〇、一一〇tと、三カ月ぶりマイナス。出荷先別では、鉄物一・五%増、ダイカスト二・四%減、板〇・四%減、押出一〇・六%増、鉄鋼九・七%減。合金地金スクラップ一〇・三%減。

(アルミ圧延・押出品生産数量)

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・九%減の一七万〇、三七四tと一カ月ぶりマイナス。

板類は生産が一カ月ぶりにマイナス、出荷は二カ月連続でマイナス。押出類は生産、出荷とも一カ月連続でプラス。

【輸出】 アルミニ新地金が前年比一・五%増の一六五t、二次合金が一・四%増の一・八〇三t、スクランプが八・二%減の八、八一六t、アルミ缶が一四・九%増の五、一八二t。
【輸入】 アルミニ新地金が前年比五・一%減の一七万〇、〇九五t、二次合金が一二・二%増の一〇万一、四六五t、スクランプが一二二・三%増の五〇一t、合金スクランプが三六二%増の三、一二一t。

(見通し)

・自動車は生産が一・七%増。国内販売台数が前年比五・三%減。生産が二カ月連続プラス、販売が三カ月ぶりマイナス。二カ月連続プラスが続かず再びマイナスに。今後も続くか注意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二・九%減と三カ月連続マイナス。下げ傾向かどうかが今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数

板類・押出生産合計は前年比〇・九%減の一七万〇、三七四tと、一カ月ぶりマイナス。今後の動向に注目。

・アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績

出荷は一・三%減の七万〇、一一〇tと、二カ月ぶりマイナス。生産量は三カ月ぶりマイナス、出荷量も二カ月ぶりマイナスへ。今後の動向に注目。

・アルミ輸出は自動車生産の好調を受けてスクラップが減少。

・アルミ輸入は内需の好調を受けて、新地金を除き増加。

(スクラップ需給予想)

流通在庫は、自動車生産などに比べて自動車販売、住宅着工が不好調だが、ここ最近のLME価格の高止まり受けて輸入塊が高止まりし市中玉は不足気味ではないか。需要面に関しては、自動車の生産は好調、販売は三カ月ぶりに減少したが、ここ最近の地金の高止まりを受けてメーカーが積極的に使用してきた輸入塊が割高のものとなり、スクラップ需要が高まるのではないか?

(価格・為替予想)

今月は米国政府の税制改革の進展やトランプ氏のアジア外交後の北朝鮮問題に左右される。米税制改革問題に関しては、上院共和党が法人減税の実施を一年先送りすることを検討していると伝わったことから政策の先行き不透明感が意識された。

北朝鮮問題に関しては、アジア外交で日本、韓国と北朝鮮問題への連携を強める発言がでたことから、ミサイル実験など行われる可能性が高いのではないか?

それらを踏まえた十一月のアルミ価格は、米国税制改革が順調に進み、北朝鮮が軍事的アクションを起こさなかつた場合、先月一段高値の二、三〇〇ドルを予測。いずれかの場合は二、一〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合先月安値の二、二〇〇ドル。

為替は、同様に米税制改革の進展と北朝鮮情勢に左右される。米税制改革に関しては前記理由から年越しの可能性が高いのではないか。北朝鮮情勢に関してはトランプ大統領のアジア外交発言から更に悪化が進むのではないか。それらを踏まえ予測は、米税制改革問題に向けての審議が予定通り進み、北朝鮮情勢で悪化がなかつた場合、円安値は九月後半安値の一五円台(TTM)を予測。いずれも行われなかつた場合、同高値の一一一円台を予測。

スクラップ購買価格に関しては五円高の一〇円高程度と予測している。

◇KLTMすず相場

十七日 一九・三九九

三二

米ドル
トン